

平成20年度科学研究費補助金に2件採択

ケニアの土壌侵食を止め環境を活かせる農業を 「ケニア西部の土地荒廃地域における地域環境の保全 と地域文化に関する学際的研究(2008-2012)」

ケニアでは、各地で土壌侵食が起り、ひどい地域では、周辺住民の生活を脅かす大きな環境破壊になっています。ICCAEは、名古屋大学の農学(土壌肥料、作物、農業経済)、地質学および文化人類学の専門分野を異にする研究チームを作ってこの問題に学際的に取り組みます。

特にガリー侵食に対するヒューマンインパクトを明らかにし、土壌侵食の問題の緊急性と危険予測の指摘及び地域資源を有効に活用した保全農業方式を確立し、地域住民の側に立った地域環境管理方策を提言することを目的として、今後5年間ケニア西部ビクトリア湖岸地域での調査研究を実施します。(浅沼修一)



農民の生活にまで脅威を及ぼす深いガリー侵食

カンボジアでの農産物加工産業振興モデル構築への取組み

「カンボジアにおける市場ニーズにあった農産物加工産業 振興による農村開発モデルの構築(2008-2010)」

ICCAEの松本教授を中心に2006年以来取り組んでいるこの研究は、カンボジアを事例として取り上げ、開発途上国における市場ニーズにあった農産物加工業の振興による持続的農村開発のモデルの構築を目的としています。これまで開発途上国における農村の貧困削減のための研究は、農業開発に重点が置かれており、小規模な農産物加工業が農村の貧困削減に果たす役割やその可能性、あるいは貧困削減に資する上での課題については、ほとんど対象にしてきませんでした。

本研究は将来、周辺農村のみならず他の開発途上国への普及を念頭に置き、カンボジア農村において、現地調査に基づき、現場で農産物加工業を振興するための実践研究を行いながら、農民の生活向上を目指す持続的農村開発モデルの構築を行います。

早速、チームは2008年5月中旬から2週間、現地調査を行い、タケオ州の酒造り農家と野菜(加工)農家を対象に研究を開始しました。(松本哲男)



市場で売るためにキュウリの漬物を作っている主婦

ICCAE、生命農学研究科とカンボジア・王立農業大学との学術交流協定締結の橋渡し

2008年1月25日、生命農学研究科はカンボジア・王立農業大学(RUA)と学術交流協定ならびに学生交換に関する覚書を締結しました。ICCAEの松本教授は、松田生命農学研究科長の名代として、協定と覚書の調印式に出席しました。生命農学研究科には近年、RUAからの国費留学生が数名入学してきており、その卒業生がRUAで教官として教育・研究指導を行っています。さらに今年度は、農学部3年生の海外研修をRUAと連携してカンボジアで行うことを計画しています。

一方、ICCAEは設立以来、RUAの教育研究強化を支援し、RUAのカリキュラム改革(2001年)、大学院修士課程(2002年設立)および博士課程(2006年設立)のコース開発と設立に協力してきました。2006年以降はRUAと連携して、農産物の加工を振興することにより、農家の生活向上を目指す取り組みを現地で行っています。この締結により、交流・連携が益々強化されることが期待されます。(松本哲男)



協定書調印式